



# 帰国生の学校選び A to Z

●第27回●

グローバル人材育成の動きに注目したい

日本の学校ではグローバル化が進んでいます。すでに大学では「グローバル 30」というプロジェクトが立ち上がり、指定校を中心に英語での教育の実践や留学生の獲得などを推進しています。また、高校でも「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」を指定してグローバル人材育成を進める動きがあります。小学校でも英語が必修化され、中学や高校での英語教育もより実践的なものに変化していますし、TOEFL のスコアを大学入学の条件にすることも検討されています。

これらは、日本の学校教育において英語がますます重要視されることを示しています。つまり、帰国生が活躍する場が浮上しているということです。ただし、帰国生は英語ができるから有利だと言っているわけではありません。帰国生のすべてが英語が得意なわけではありませんし、国内生でも帰国生以上に英語力のある子どももいます。

しかし、グローバル社会で必要なのは高度な英語力のみではありません。国籍や人種の異なる人々とのコミュニケーションができることが重要です。異文化で暮らし、学んだ経験のある帰国生は、その力を身をもって体験して吸収しています。したがって、日本でも海外を視野に入れて物事を考えられるでしょうし、再び海外で学ぶことや海外で働くことも円滑に進められると思います。グローバル化とは人々が地球規模で活躍することですから帰国生はその素養を持っているといえます。

帰国生が帰国後に活躍するためには、海外で培った素養をますます伸ばしてくれるような学校選びをすることが大切です。海外では学校選びのための情報も多くはなく、知名度や進学実績が目に向けてしまいがちです。しかし、これからはグローバル人材育成への取り組み、例えばネイティブスピーカーの教員による語学教育や海外での研修制度の充実、海外留学の実績、また近年増加傾向にある IB (国際バカロレア) プログラムの導入などにも注目することをお勧めします。

執筆者：丹羽 筆人 (文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在は、デトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail [bunkyo@ujeec.org](mailto:bunkyo@ujeec.org) Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail [nihs@ujeec.org](mailto:nihs@ujeec.org) Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)

